

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成18年3月16日(2006.3.16)

【公表番号】特表2006-501225(P2006-501225A)

【公表日】平成18年1月12日(2006.1.12)

【年通号数】公開・登録公報2006-002

【出願番号】特願2004-529962(P2004-529962)

【国際特許分類】

A 6 1 K	38/46	(2006.01)
A 6 1 K	9/08	(2006.01)
A 6 1 K	47/02	(2006.01)
A 6 1 K	47/18	(2006.01)
A 6 1 K	47/34	(2006.01)
A 6 1 K	47/36	(2006.01)
A 6 1 K	47/46	(2006.01)
A 6 1 P	1/02	(2006.01)
A 6 1 P	31/04	(2006.01)
A 6 1 P	43/00	(2006.01)
C 1 2 N	9/24	(2006.01)
C 1 2 N	9/48	(2006.01)

【F I】

A 6 1 K	37/54	
A 6 1 K	9/08	
A 6 1 K	47/02	
A 6 1 K	47/18	
A 6 1 K	47/34	
A 6 1 K	47/36	
A 6 1 K	47/46	
A 6 1 P	1/02	
A 6 1 P	31/04	
A 6 1 P	43/00	1 2 1
C 1 2 N	9/24	
C 1 2 N	9/48	

【手続補正書】

【提出日】平成18年1月26日(2006.1.26)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

少なくとも1種の生物学的に活性なプロテアーゼと、
少なくとも1種の生物学的に活性なグリコシダーゼと、を含む組成物であって、
プロテアーゼとグリコシダーゼの活性比は、1,000,000:1~1:1,000
,000であり、総酵素活性は少なくとも2U/mlである、組成物。

【請求項2】

前記組成物は、プロテアーゼとして、プロテイナーゼK、コラゲナーゼもしくはプロナ

ーゼのうち少なくとも 1 種、または 2 種あるいは 3 種の混合物を含む、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 3】

前記組成物は、グリコシダーゼとして、リゾチーム型、 - アミラーゼ型もしくはデキストラナーゼ型のグリコシダーゼのうち少なくとも 1 種、または 2 種あるいは 3 種の混合物を含む、請求項 1 または 2 に記載の組成物。

【請求項 4】

前記組成物は、少なくとも 2 種のプロテアーゼと、少なくとも 1 種のグリコシダーゼとを含む、請求項 1 ~ 3 のいずれか 1 項に記載の組成物。

【請求項 5】

前記組成物は、以下の群のアジュバント：

- i . 錫化剤
- i i . 酵素基質
- i i i . 酵素エフェクター
- i v . 増粘剤
- v . 保存剤
- v i . 安定化剤

の 1 種もしくはそれ以上から選択される少なくとも 1 種のアジュバント、

および / または少なくとも 1 種の溶媒、

および / または少なくとも 1 種の緩衝液、を含む請求項 1 ~ 4 のいずれか 1 項に記載の組成物。

【請求項 6】

前記少なくとも 1 種の酵素は、pH 1 ~ 10 の範囲で酵素活性を有する、請求項 1 ~ 5 のいずれか 1 項に記載の組成物。

【請求項 7】

請求項 1 ~ 6 のいずれか 1 項に記載の組成物を製造する方法であって、

少なくとも 1 種の生物学的に活性なプロテアーゼと、少なくとも 1 種の生物学的に活性なグリコシダーゼを、該プロテアーゼと該グリコシダーゼの活性比が 1 , 0 0 0 , 0 0 0 : 1 ~ 1 : 1 , 0 0 0 , 0 0 0 となり、総酵素活性が少なくとも 2 U / m l となるように混合する、請求項 1 ~ 6 のいずれか 1 項に記載の組成物を製造する方法。

【請求項 8】

少なくとも 2 種の酵素を含むキットであって、前記酵素は、請求項 1 ~ 6 のいずれか 1 項に記載の組成物を得るために混和可能である、キット。

【請求項 9】

請求項 1 ~ 6 のいずれか 1 項に記載の少なくとも 1 種の組成物、少なくとも 1 種の処理溶液、および / または分離された溶媒、を含むキットであって、

前記処理溶液は、pH 4 未満の酸性範囲にタンパク質分解触媒作用の至適値を有する少なくとも 1 種のプロテアーゼを含む、キット。

【請求項 10】

カリエスを除去するための治療剤を製造するための、請求項 1 ~ 6 のいずれか 1 項に記載の組成物の使用。

【請求項 11】

水、酸、ペプシンおよび流動性添加物を含む 4 . 0 以下の pH 値を有する組成物であって、前記ペプシンの濃度は 1 ~ 5 0 , 0 0 0 U / m g であり、前記組成物の粘度は 1 0 ~ 1 0 0 0 m P a s である、組成物。

【請求項 12】

さらに、ポリエーテルグリコール、もしくは両性イオン界面活性剤、またはポリエーテルおよび両性イオン界面活性剤の混合物が含まれる、請求項 11 に記載の組成物。

【請求項 13】

前記組成物は阻害剤を含有することを特徴とする、請求項 11 または 12 に記載の組成

物。

【請求項 1 4】

2種の成分AおよびBを含む組成物であつて、

a) 成分Aは、水と、ペプシンの活性が最も高くなるpH値より大きなpH値を提供する緩衝系と、流動性添加物とを含み、

b) 成分Bは、水と、ペプシンの活性が最も高くなるpH値より小さなpH値を提供する酸と、増粘剤と、ポリエーテル、もしくは両性イオン界面活性剤、またはポリエーテルおよび両性イオン界面活性剤の混合物と、を含む組成物。

【請求項 1 5】

前記成分Aは50,000U/ml未満のペプシン活性を有することを特徴とする、請求項14に記載の組成物。

【請求項 1 6】

前記成分Aは20mg/ml未満のペプシンを含有することを特徴とする、請求項14または15に記載の組成物。

【請求項 1 7】

前記成分AはpH5~6のリン酸緩衝液を含有し、前記成分BはpH1.5~4.0のリン酸を含有することを特徴とする、請求項14~16のいずれか1項に記載の組成物。

【請求項 1 8】

前記成分Aは増粘剤として多糖を含有することを特徴とする、請求項14~17のいずれか1項に記載の組成物。

【請求項 1 9】

前記成分Bはポリエチレングリコールもしくはベタインまたはその両方を含有することを特徴とする、請求項14~18のいずれか1項に記載の組成物。

【請求項 2 0】

前記成分Bは流動性添加物を含有することを特徴とする、請求項14~19のいずれか1項に記載の組成物。

【請求項 2 1】

カリエスを除去するための治療剤を製造するための、pH7未満の範囲でタンパク質分解活性を有する酵素の使用。

【請求項 2 2】

カリエスを除去するための治療剤を製造するためのグリコシダーゼの使用。

【請求項 2 3】

少なくとも1つのチャンバは成分Aを含有し、少なくとも1つのチャンバは成分Bを含有し、ここで、

前記成分Aは水と、ペプシンの活性が最も高くなるpH値より大きなpH値を提供する緩衝系と、流動性添加物とを含み、

前記成分Bは、水と、ペプシンの活性が最も高くなるpH値よりも小さなpH値を提供する酸と、流動性添加物と、ポリエーテル、もしくは両性イオン界面活性剤、またはポリエーテルおよび両性イオン界面活性剤と、の混合物を含むことを特徴とする、液体を貯蔵および分配するためのマルチチャンバデバイス。